

図表1 注意すべき日本株の主な変動要因

景気動向

- ・実質GDP（経済成長率） 内閣府が四半期ごとに公表
ただし下記の指標に比べ速報性が低い...
- ・日銀短観の業況判断DI
- ・鉱工業生産指数

米国株

- ・NYダウやS&P500（米国株と連動して日本株も動く）

▶ ほかには日本や米国の金利・為替にも注意!

(出所) 筆者作成

ら、他の経済指標も参考にしながら捉え

た、速報性があり景気動向と一致する経済指標だ。これらが発表されると、内容次第で株価が短期的に変動する場合があります。

ただし、個別の経済指標は景気動向の一部分を示すに過ぎない。中長期的な景気動向を見るのな

る必要がある。近年は新型コロナウイルスの影響にも注視する必要があります。

株価の変動要因として重要なもう1つの要素が、海外の株価、中でも米国の株価の動向だ。日本株は米国株に連動しやすい(図表2)、日々の株価の報道でも米国株に触れることは多い。日本株の動向を見る際は、代表的な株価指数であるNYダウやS&P500には常に気を配ろう。

米国株との連動性が高い要因は次のとおり。日米の景気は連動するので、米国株上昇→米国景気好調→日本景気好調→日本株上昇という関係が成り立つ。しかも昨今は、日本企業のグローバル化によって米国などの影響をより受けやすくなった。

まず金利との関係では、株価と金利は必ずしも連動しないことに注意しよう。

金利や為替相場など、他の市場との関係でも株価は変動する。基本は変わらず、株価にとってプラス材料は上昇、マイナス材料は下落の要因になると押さえておこう。

金利と為替にも目を向けよう

ただし、米国株の動向を見る場合は要因に注意しよう。例えば、「GAF A」といったIT関連銘柄を中心に上昇する局面では、日本株の上昇には限界がある。実際、コロナ禍で米国株や欧州株が史上最高値を更新した状況でも、日本ではバブル崩壊後の高値を刷新したとはいえ、海外株価ほどの勢いはなかった。

情報提供に自信がつく!

市場動向の質問に備えて この指標に着目しよう

①~② **小林真一郎** 三菱UFJリサーチ&コンサルティング調査部主席研究員

③~⑤ **土田陽介** 三菱UFJリサーチ&コンサルティング調査部副主任研究員

お客様から市場の見通しについて質問を受けても、担当者が断定的に答えることは禁物。しかし、参考になる情報提供には取り組みたい。
ここでは、株価や為替、金利などの主なカテゴリーごとにお客様からの質問を挙げて、どんな指標や動きを見ればよいのか解説しよう。

ココに注目!

景気動向の統計や 米国の株価・経済を 案内しよう

質問1 日本の株価はどうなるの?

株 価は基本的に、需要と供給の関係で動く。つまり買い手が売り手よりも多い株は上昇し、売り手が買い手よりも多い株は下落する。

個別の企業の株価は、業績や成長性など企業固有の状況によって変動する。業績上昇が期待できれば需要が増えて上昇し、悪化が予測されれば需要が減って下落するのだ。

一方で、日経平均株価などの株価指数や、投資信託をはじめとして多くの株式を組み合わせたポートフォリオは、景気動向や海外情勢などマクロ的な観点が影響する。以下では両者をまとめて、日本株

を見る方法を紹介しよう。

景気動向は日銀短観などを確認

日本株の変動要因は、景気動向と米国株に分けられる。まず景気動向との関係から説明しよう。企業や業種によって景気の動きにどれほどの影響を受けるかは異なるが、多くの企業は、景気が良くなれば業績が改善して株価が上昇し、景気が悪化後退すれば業績が悪化して株価が下落する。個々の企業が集まった日本株も、同様の傾向で動く。

それでは景気動向は、具体的に何をすればよいのか。主